



APSF.ORG

# ニュースレター

THE OFFICIAL JOURNAL OF THE ANESTHESIA PATIENT SAFETY FOUNDATION

引用：Greenberg, S. The APSF revisits its top 10 patient safety priorities. APSF Newsletter. 2021;36:48,53.

## APSFは患者安全に関する優先事項トップ10を再検討

Steven Greenberg, MD, FCCP, FCCM 著

2018年、APSF Board of Directors (BOD)は、周術期の患者安全に関する最優先事項について投票を行いました。このリストは、最新の文献のレビュー、APSFニュースレターへの投稿、BODの多職種専門家の意見を組み合わせで作成されました。それ以来、APSFは、これらの優先事項に関する教育、研究、および啓発活動の強化に資源を投入してきました (<https://www.apsf.org/article/improving-perioperative-patient-safety-a-matter-of-priorities-collaboration-and-advocacy/>)。現在のBODは、最新の周術期患者安全の問題を正確に表現するために、患者安全の最優先事項を毎年見直す必要性を感じています。

現APSF副会長であるDan Cole, MDは、タスクフォースを率い、APSFのBODおよび委員会のメンバー全員に配布するアンケートを作成しました。調査の回答は、BODから構成されたタスクフォースによって集計されました。上位16の優先事項のリストから、BODは2021年の患者安全の優先事項トップ10の選択のために投票しました (図1)。また、これらの患者安全の優先事項に焦点を当てた過去、現在、将来の活動を図1に示します。1位は「安全の文化、包括性、多様性」、2位は「チームワーク、同僚とのコミュニケーション

、多職種連携」、3位は「周術期の臨床的悪化の予防、発見、病因の特定、緩和」となりました。

患者安全の優先事項リストへの新たに追加されたのは、以下の項目です。(2) チームワーク、同僚とのコミュニケーション、多職種とのコミュニケーション。(6) 手術患者におけるオピオイド関連の弊害の予防と軽減。(8) 新興感染症 (COVID-19を含むがこれに限定されない)。これには、患者管理、ガイドラインの作成、機器の工夫、手術リスクの判断が含まれます。(9) 臨床医の安全、労働衛生、健康。

安全文化の醸成は、2021年には最優先事項に引き上げられ、周術期の患者安全における包括性と多様性の重要性を包含するように修正されました。これらの事項はすべて、周術期の患者安全の現況を表しており、「麻酔ケアによって誰も傷つけられるべきではない」というAPSFのビジョンに合致しています。

2018年に優先順位が下位だったトピックの中には、2021年の優先リストのトップ10に残らないものもありました。(9) 安全性にプラスの影響を与える費用対効果の高いプロトコルとモニタリング。(10) プロセスの実施と継続的な改善への安全性の統合。(11) 燃え尽き症候群。(12) 処置エリアでの注意散漫。これらの事項の

中には、2021年の新しい患者安全の優先事項に統合されるものもあれば、現在のものと比較してランキングの牽引力がなかったものもありました。

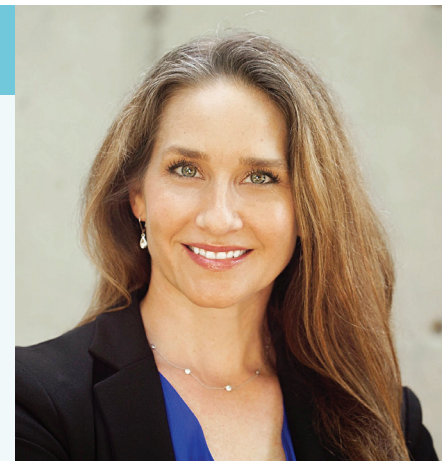
APSFは、2021年の患者安全の優先事項トップ10にAPSFのリソースの最適な配分方法に関する推奨事項の作成を目標とするアドバイザリーグループを設立しています。これらのグループは、APSFがこれらの重要な問題に関して患者安全を向上するための最新のアプローチを世界中に提供できるよう、特定の優先事項に関する専門家としても活動します。APSFと一緒に、患者安全の優先事項やそれを超えて、あなた自身の診療に必要な変化を起こしてください。

Steven Greenberg, MDは、APSFのセクレタリーであり、APSF ニュースレターの編集者である。また、シカゴ大学の麻酔およびクリティカルケア部門の臨床教授であり、NorthShore University HealthSystemの麻酔科、クリティカルケアおよび疼痛医学部門の教育担当副委員長でもあります。

著者に開示すべき利益相反はない。

## 私たちとつながりませんか?

APSFはソーシャルメディアプラットフォーム上でインターネットを介して患者安全に非常に熱心な人達と繋がりたいと考えています。この一年間で私たちは読者数を伸ばし、私たちのコミュニティにとって最高のコンテンツを見出すために、一丸となって取り組んできました。フォロワーと契約数が数千パーセント増加しており、2023年までこのまま軌道に乗り続けることを期待しています。Facebookで<https://www.facebook.com/APSF.org/>、またはTwitterで<https://twitter.com/APSF.org>をフォローしてください。また、LinkedInは<https://www.linkedin.com/company/anesthesia-patient-safety-foundation-apsf/>からお願いします。あなたの声をお待ちしています。学術論文やプレゼンテーションなど患者の安全に関する仕事を共有するためにタグ付けをお願いします。それらのハイライトは私たちのコミュニティと共有されます。アンバサダーとなって、インターネットを介しAPSFを拡大するという取り組みに参加を希望される場合は、いずれかの担当者にメールにてお問い合わせください。デジタル戦略とソーシャルメディアディレクターのMarjorie Stiegler, MD ([stiegler@apsf.org](mailto:stiegler@apsf.org))、APSFアンバサダープログラムディレクターのEmily Methangkool, MD ([methangkool@apsf.org](mailto:methangkool@apsf.org))、またはソーシャルメディアマネージャーのAmy Pearson ([pearson@apsf.org](mailto:pearson@apsf.org))宛てにお問い合わせください。オンラインで皆さんにお会いできることを楽しみにしています!



Marjorie Stiegler, MD, APSFデジタル戦略およびソーシャルメディア担当ディレクター。

# 麻酔専門家は環境への害を減らし、患者の安全性を向上させることができる

## 図1: APSFの2021年周術期患者安全優先事項と進行中の活動

次のリストは、私たちの優先事項トップ10と過去5年間に行ったそれぞれの活動を示しています。

活動内容の概要は、すべてを網羅するものではありません。

### 1. 安全、包括性、多様性の文化

- APSFは、2017年のASA年次総会ワークショップおよびAPSFニュースレターの記事とプレゼンテーションでこの問題を取り上げました。
- Jeff Cooper, PhDによる2019年のPierce講演では、この問題が強調されました。彼の発言は2020年2月号のAPSFニュースレターに公開されています。
- APSFは過去5年間でこの問題に関する研究助成金を1件支援しています。

### 2. チームワーク、同僚とのコミュニケーション、多職種連携

- APSFはMulticenter Handoff Collaborative (<https://www.apsf.org/article/multicenter-handoff-collaborative/>) の協力組織およびサポーターとして機能しています。
- この事項は2017年APSF Stoelting ConferenceといくつかのAPSFニュースレターの記事で話題になりました。
- APSFは、Multicenter Handoff Collaborativeに財政的およびインフラ的支援を行っています。

### 3. 周術期の臨床的悪化の予防、発見、病因の決定、および緩和

- a. すべての周術期患者における早期警告システム
  - b. 患者の悪化のモニタリング
    - i. 病棟での術後の継続的なモニタリング
    - ii. オピオイドによる換気障害とモニタリング
    - iii. 早期敗血症
  - c. 代償不全となっている患者の早期発見と対応
- 2019年のStoelting Conferenceはこの事項を特集しました。
  - このトピックは、2020年APSFニュースレターおよびAPSF主催のパネルやプレゼンテーションで取り上げられました。
  - APSFはこのトピックに関連する特定の問題に対処するために、米国麻酔学会 (ASA) およびその他のサブスペシャリティ組織と協力しています。
  - APSFは、failure-to-rescueを減らす可能性のあるいくつかのモデルのプロトタイプ開発をサポートします。
  - APSFは過去5年間でこの問題に関する2つの研究助成金を支援しました。

### 4. 内視鏡検査室、心臓カテーテル検査室、インターベンショナルラジオロジー室など、手術室以外の場所での安全性

- 最近APSFは、この問題の側面をAPSFニュースレターの記事(2020年6月など)で取り上げました。
- APSFは過去5年間でこの問題に関する3つの研究助成金を支援しました。

### 5. 周術期せん妄、認知機能障害、脳の健康

- APSFは、この事項についてASAとAmerican Association of Retired Personsの合同の取り組みをサポートしています。
- この問題は2020年10月号のAPSFニュースレターに取り上げられます。
- APSFは過去5年間でこの問題に関する3つの研究助成金を支援しました。

### 6. 手術患者におけるオピオイド関連の弊害の予防と軽減

- この問題は、2016年以降、APSFニュースレターの11件の記事で取り上げられています。
- APSFは過去5年間でこの問題に関する研究助成金を1件支援しています。
- APSFは、米国議会、Joint Commission、諸規制当局におけるオピオイド投与患者の術後モニタリングを促進するための継続的な取り組みを支援しています。

### 7. 医薬品の安全性

- a. 作用・副作用
  - b. ラベルの問題
  - c. 供給不足
  - d. 技術的な問題 (バーコードやRFIDなど)
  - e. 投薬エラーの回避と検出のプロセス
- 2018年のStoelting Conferencesはこの事項を特集しました。
  - APSFは、2019年のASAおよびニューヨーク州麻酔科学会の年次総会で座談会を開催しました。
  - 2020年には、この問題に関する複数のAPSFニュースレター記事が公開されました。
  - APSFは、2021年にInstitute for Safe Medication Practicesとサミットを共催します。

### 8. 新興感染症 (COVID-19 を含むがこれに限定されない): 患者管理、ガイドラインの作成、機器の工夫、および手術リスクの判断を含む

- APSFは、術中感染予防に関する2018年米国医療疫学協会 (Society for Healthcare Epidemiology of America, SHEA) のコンセンサスガイドライン開発を支援しました。(<https://www.cambridge.org/core/journals/infection-control-and-hospital-epidemiology/article/infection-prevention-in-the-operating-room-anesthesia-work-area/66EB7214F4F80E461C6A9AC00922EFC9>)
- APSFは、この事項に関する2017年NYSSAおよびASAでの座談会を後援しました。
- APSFは、2020年にCOVIDに関連する情報の収集と共有に多大な貢献をし、関連する共同声明、診療ガイドライン、FAQの作成を支援しました。
- APSFは過去5年間でこの事項に関する2つの研究助成金を支援しています。

### 9. 臨床医の安全性: 労働衛生と健康

- この事項は2021年APSF Stoelting Conference で特集されました。
- この事項に関する5つの記事がAPSFニュースレターに掲載されています。
- APSFは2016年以降、この事項に関する1件の研究助成金を支援しています。

### 10. 気道管理の難しさ、技術、機器

- 最近のAPSF ニュースレターのいくつかの記事で、この事項に触れています。
- APSFは過去5年間でこの事項に関する3つの研究助成金を支援しました。

このリストはAPSF会長であるMark Warner、MDより引き継がれました。